

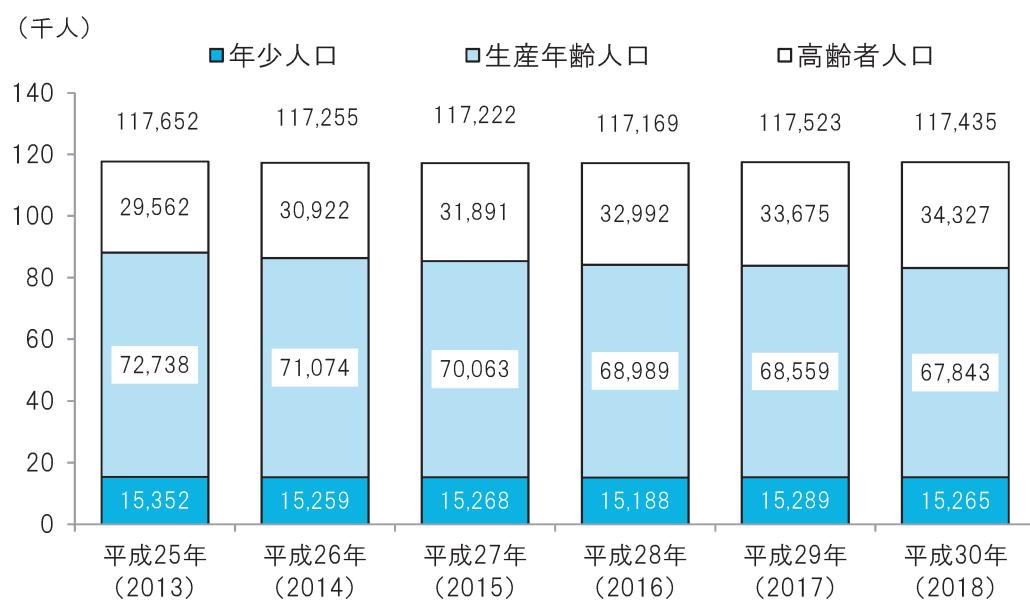
第2章 現状と課題

1. 本市の人口構成

住民基本台帳における本市の平成 30（2018）年の総人口は 117,435 人で、そのうち 65 歳以上の高齢者人口は 34,327 人（高齢化率 29.2%）です。

平成 25（2013）年以降、総人口及び年少人口（0～14 歳）は横ばい、生産年齢人口（15～64 歳）は減少、高齢者人口（65 歳以上）は増加の傾向を示しており、高齢化が進んでいます。

■本市の人口構成



資料：住民基本台帳（各年 10 月 1 日）

2. 本市を取り巻くスポーツ環境の現状

(1) 市内の主なスポーツ関係団体

①廿日市市スポーツ協会

廿日市市スポーツ協会（以下、「市スポーツ協会」という。）の前身である廿日市町体育協会は、昭和 31（1956）年の廿日市町誕生の後、まもなく発足しました。その後、市制施行により、昭和 63（1988）年に廿日市市体育協会と名称変更し、平成 15（2003）年には NPO 法人格を取得し、名称を「特定非営利活動法人廿日市市スポーツ協会」に改名しました。また、平成 15（2003）年の合併により、佐伯町体育協会及び吉和村体育協会と統合し、さらに平成 18（2006）年の合併により、大野町体育協会及び宮島町体育協会と統合しています。

市スポーツ協会は、市内におけるスポーツ活動団体の育成や支援を行うことにより、アマチュアスポーツを推進し、市民の体力向上とスポーツ精神の高揚を図ることを目的に活動しています。

現在、市スポーツ協会は、佐伯、吉和及び宮島の 3 地域連盟を設置し、24 競技団体が加入しています。

②スポーツ少年団

本市のスポーツ少年団は、平成 30（2018）年 4 月 1 日現在で、13 種目 46 団体が市スポーツ協会に登録しています。

③総合型地域スポーツクラブ

本市では、「NPO 法人廿日市スポーツクラブ」、「ユアックさいき」、「NPO 法人妹背ウオーターフォールクラブ」の 3 つの総合型地域スポーツクラブが活動しており、スポーツ教室やスポーツ交流会などを開催しています。

また、総合型地域スポーツクラブは、地域住民の健康・体力増進に資するだけではなく、スポーツを通じた生きがいづくり、まちづくりに貢献しています。

(2) 市内の主なスポーツ施設利用者数

市内の主なスポーツ施設の利用者について、前計画を策定した平成 21（2009）年度から平成 29（2017）年度までの推移を見ると、廿日市市スポーツセンター及び廿日市市サッカー場は、多少の増減はあるものの増加傾向ですが、それ以外は横ばいになっています。

■市内の主なスポーツ施設利用者数の推移

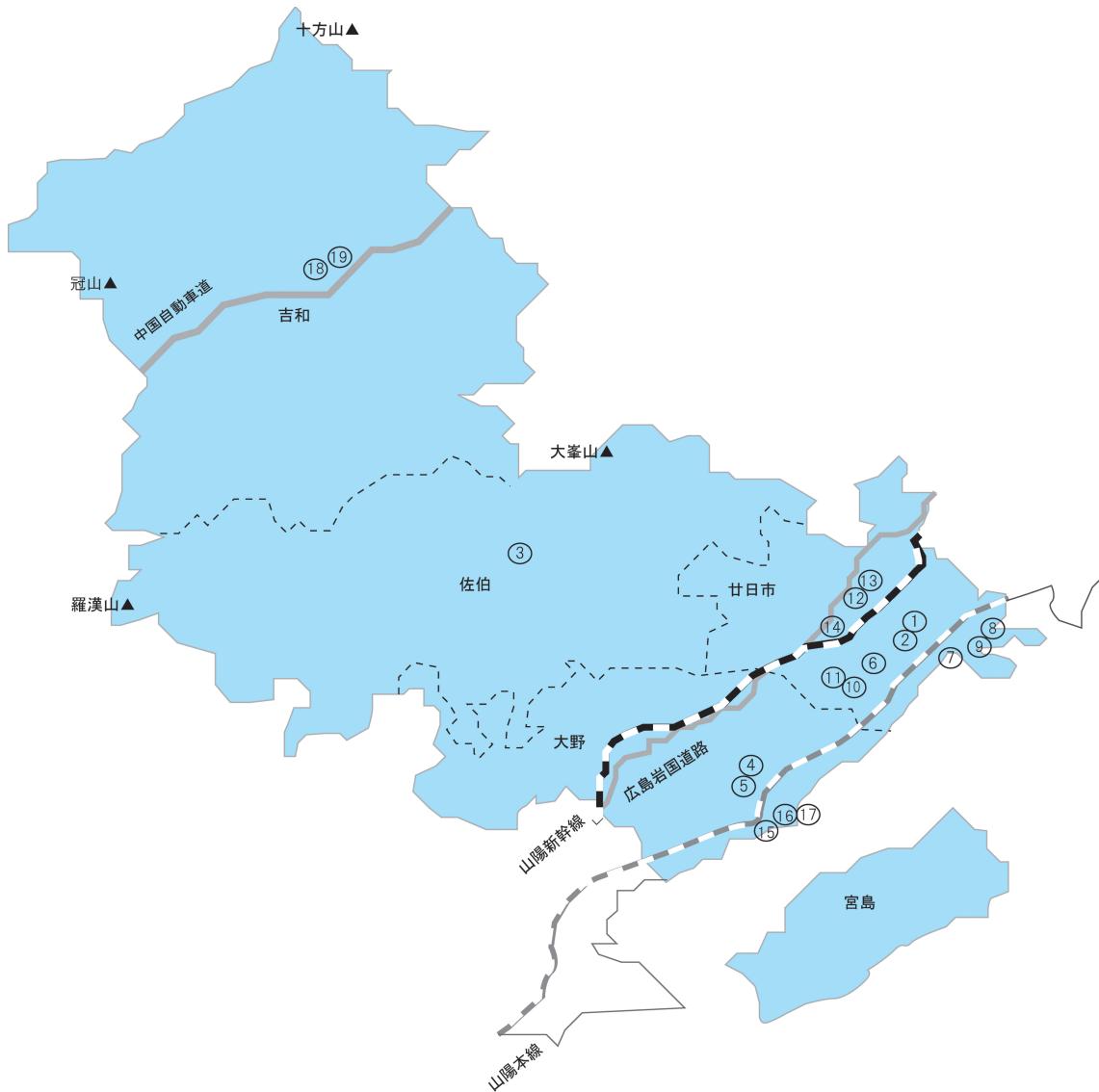
単位：人

施設名	平成 21 (2009) 年度	平成 22 (2010) 年度	平成 23 (2011) 年度	平成 24 (2012) 年度	平成 25 (2013) 年度	平成 26 (2014) 年度	平成 27 (2015) 年度	平成 28 (2016) 年度	平成 29 (2017) 年度
廿日市市スポーツセンター	348,392	372,288	381,186	408,879	417,216	427,382	435,920	477,210	430,498
佐伯総合スポーツ公園	65,843	60,829	57,107	61,606	57,313	55,305	64,106	68,213	63,346
大野体育館	55,041	55,041	49,519	55,602	50,075	57,927	50,835	52,604	53,263
廿日市市サッカー場	52,616	56,852	52,616	65,806	67,804	70,070	51,979	65,048	67,435
廿日市市パークゴルフ場	13,038	12,286	13,038	12,670	13,364	12,983	13,035	12,741	13,380

(3) 公共のスポーツ・社会体育施設の配置状況

本市におけるスポーツ・社会体育施設の配置状況は以下のとおりです。

■本市におけるスポーツ・社会体育施設の配置状況



- ① 廿日市市スポーツセンター
- ② 峰高公園多目的広場
- ③ 佐伯総合スポーツ公園
- ④ 大野体育館
- ⑤ 大野テニスコート
- ⑥ 廿日市市サッカー場
- ⑦ 廿日市市パークゴルフ場
- ⑧ 昭北グラウンド
- ⑨ 昭北テニスコート
- ⑩ 阿品台野球場

- ⑪ 阿品台テニスコート
- ⑫ 宮園野球場
- ⑬ 宮園テニスコート
- ⑭ 四季が丘テニスコート
- ⑮ 小田島グラウンド
- ⑯ 小田島多目的広場
- ⑰ 小田島テニスコート
- ⑱ 吉和グラウンド
- ⑲ 吉和プール

3. アンケート調査による市民意識の現状

(1) 調査の目的

廿日市市民のスポーツに関する意識とスポーツ活動の現状を把握し、今後のスポーツ推進の基本方針を定める「廿日市市スポーツ推進計画」策定の基礎資料とするために、アンケート調査を実施しました。

(2) 調査の概要

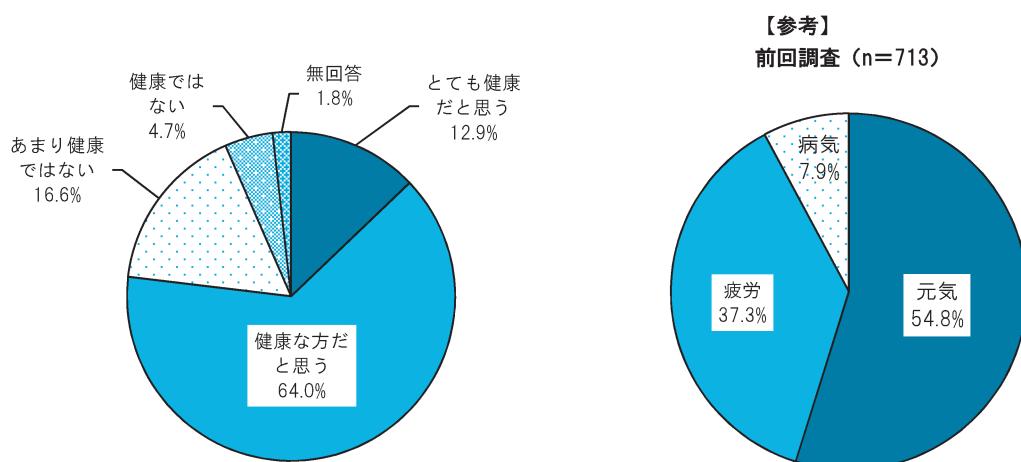
項目	内容
調査対象	18歳以上の市内在住者の中から無作為抽出
調査期間	平成29(2017)年9月8日～同年10月31日
調査方法	郵送による配布・回収
配布数	2,000世帯
回収数(回収率)	887名(44.4%)

回答者の属性や各設問への回答状況などは資料編にまとめています。

(3) アンケート調査の結果

① あなたは、現在の自分のことを健康だと思いますか。(一般 n=887)

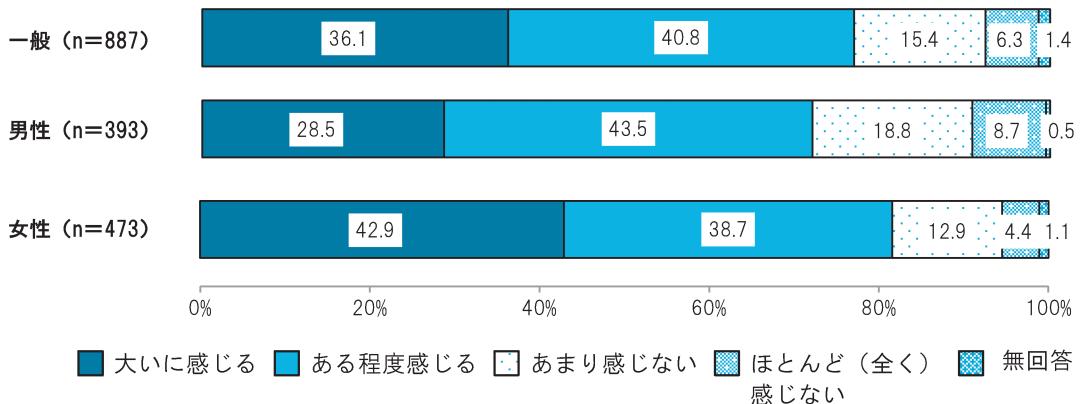
「とても健康だと思う」と「健康な方だと思う」を合わせた「健康な人」が7割以上となっています。「健康な人」の割合は、前回調査時より22.1ポイント増加しており、社会的に健康志向が高まっていることがうかがえます。



② あなたは普段、運動不足を感じていますか。(一般 n=887)

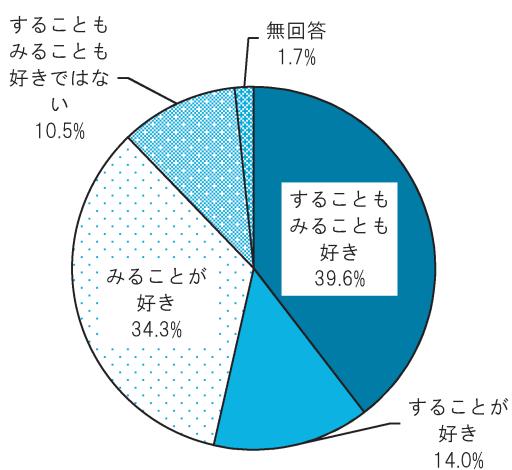
「大いに感じる」と「ある程度感じる」を合わせた「（運動不足を）感じる人」が7割以上となっています。

男女別に見ると、女性の「大いに感じる」人が4割以上を占めており、特に女性の運動機会が少ないことがうかがえます。



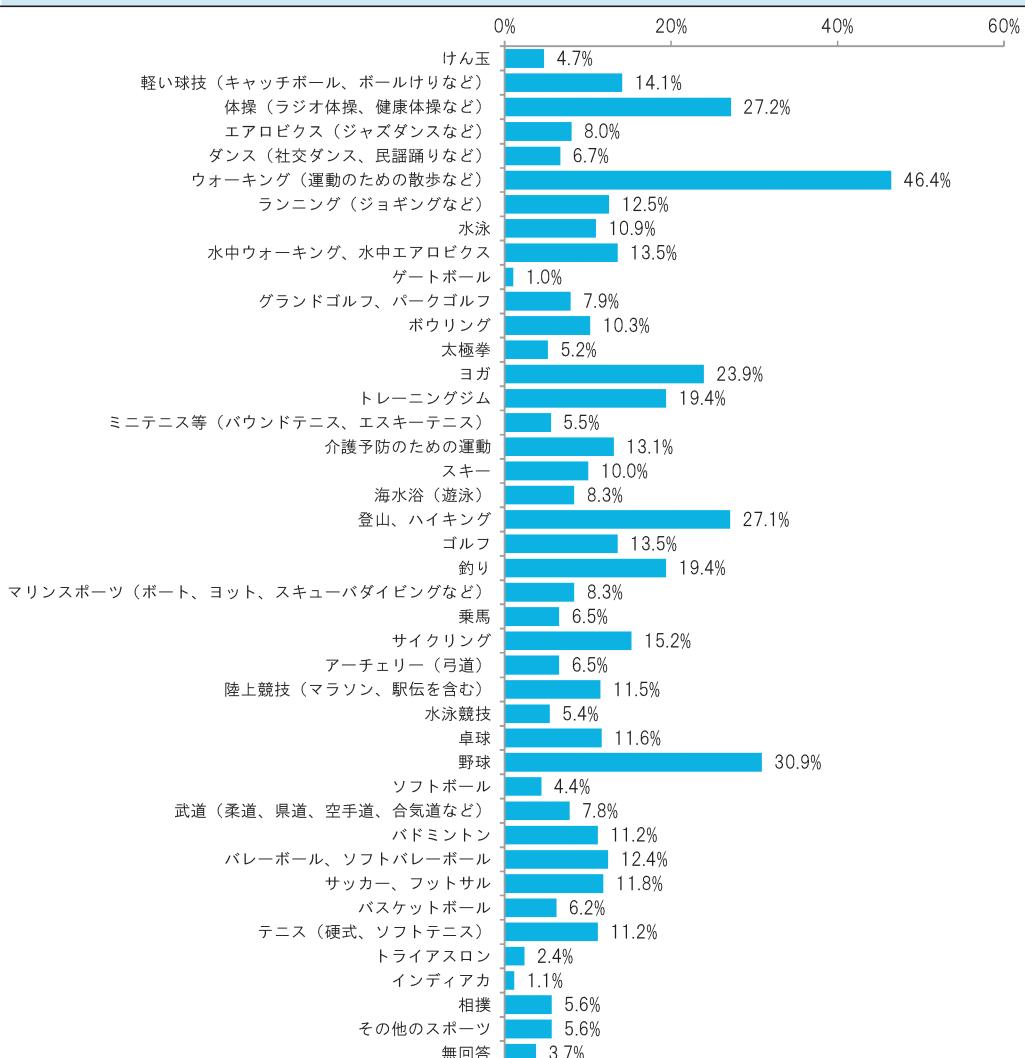
③ 運動・スポーツをすることやみるのが好きですか。(一般 n=887)

「することもみることも好き」～「みることが好き」を合わせた「することやみることが好きな人」が8割以上となっています。



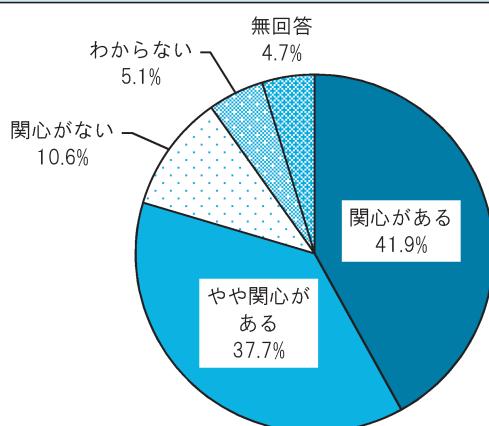
④ あなたは今どのようなスポーツや運動に関心がありますか。(一般 n=887)

関心が高いスポーツや運動は、「ウォーキング（運動のための散歩など）」が46.4%で最も多く、次いで、「野球」30.9%、「体操（ラジオ体操、健康体操など）」27.2%、「登山、ハイキング」27.1%と続いています。



⑤ オリンピック・パラリンピックに関心がありますか。(一般 n=887)

「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた「関心がある人」が7割以上となっていることから、国民的スポーツ大会としての関心の高さがうかがえます。

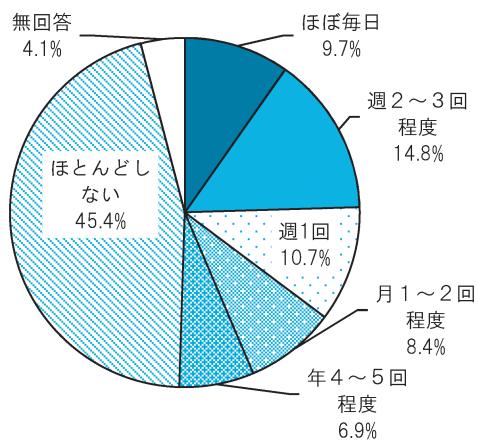


⑥ あなたはこの1年間にスポーツや運動をどの程度しましたか。(一般 n=887)

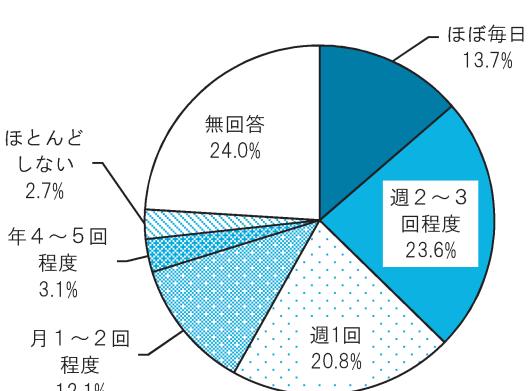
「ほとんどしない」が最も多く、次いで、「週2～3回程度」が続いている、スポーツや運動をする人とそうでない人の二極化が進んでいます。

理想では、「週2～3回程度」が最も多くなっています。

【現実】

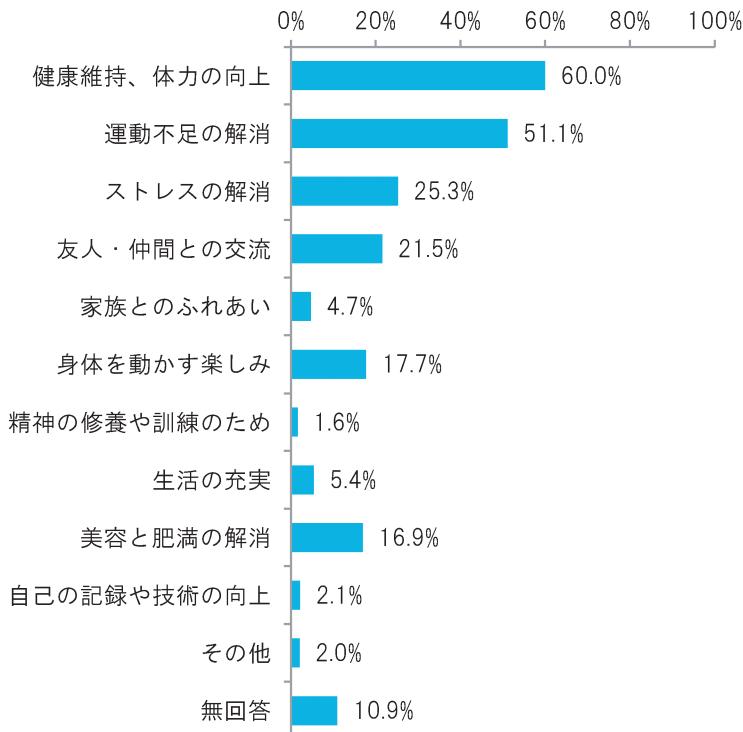


【理想】



⑦ あなたは、スポーツや運動するののはどのような目的で行いますか。(一般 n=887)

「健康維持、体力の向上」が最も多く、次いで、「運動不足の解消」が続いていることから、健康志向の高まりがうかがえます。



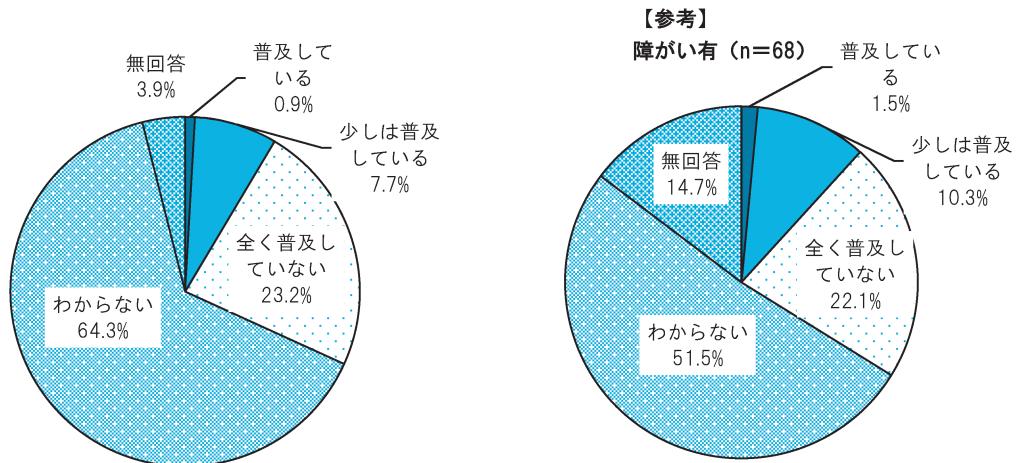
⑧ 職場や住んでいる地域で障がい者のスポーツが普及していると思いますか。

(一般 n=887)

「普及している」と「少しは普及している」を合わせた「普及していると思う人」が 8.6% となっています。一方、「全く普及していない」が 2 割強となっています。

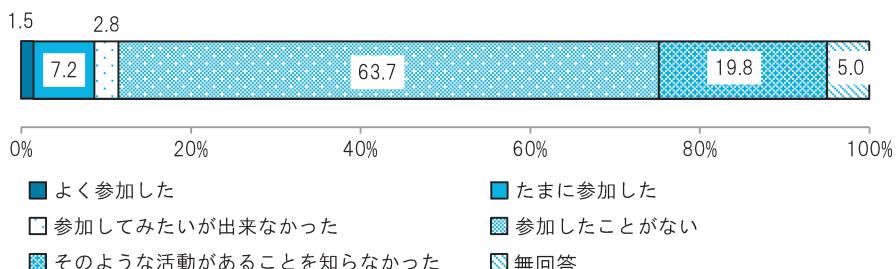
障がいがある人では、「普及していると思う人」が 11.8% となっています。

どちらも「わからない」が半数以上を占めていることから、社会の中における障がい者スポーツに関する認識がまだ低いことが考えられます。



⑨ この1年間にスポーツや運動の指導やイベントへの協力などスポーツや運動に関わるボランティア活動に参加をしたことがありますか。(一般 n=887)

「よく参加した」と「たまに参加した」を合わせた「参加した」人が 8.7% となっています。一方、「参加したことがない」は、6 割強となっています。また、「そのような活動があることを知らなかった」人が 2 割近くいることから、ボランティア活動の周知が今後の課題といえます。



⑩ あなたは、今後スポーツや運動をさらに盛んにするためには、どのようなことが重要だと思いますか。(一般 n=887)

「公共スポーツ施設の整備」が最も多くなっています。次いで、「公共スポーツ施設主催のスポーツ教室の充実」が続いており、市民のスポーツ推進においては、公共スポーツ施設の役割が重要視されていることがうかがえます。

